

## 7. 「畑プロジェクトつちのこ」活動で 困難背負う仲間たちの大収穫祭だ

グループ名 みんなでつくる学校 とれぶりんか「畑プロジェクトつちのこ」  
代表者名 中川 雄二

### ① 活動目的

○障害児・者、不登校、引きこもり、リストカッター、「うつ」的状況下にある仲間たちの踏み出しの場として、居場所としての畑づくり～土とのふれあいを通じて、元気をもらい自身をつけて、人とのかかわり、共に生きることの喜びを分かち合う。

○自分の頑張りで人に喜んでもらうことの素晴らしさを感じ取ってもらう。ボランティアの仲間たち自身も、そのことで支えられてゆく。地域コミュニティづくりのひとつのモデルとして創り上げてゆく。

### ② 活動概要

○「畑プロジェクトつちのこ」として活動

○日常的な相談事業のなかで、家庭訪問や面談を通じて、約 50 名の障害児・者、不登校、引きこもり者、「うつ」的状況下にある仲間たちが存在している。社会人として働くボランティアスタッフによって活動をささえる。

○すでに、2ヶ所の畑を借りることができている。

●枚方市一磯島小学校給食センター前の 20 坪

●寝屋川市一旧東寝屋川高校の裏手近くに 30 坪

○毎週二回、二手に別れて活動

キュウリ、ゴーヤ、モロヘイヤ、エンドウなどの野菜作りに取り組む

○出発点になったのは、「引きこもり者、不登校生徒のうつ病発生やうつの症状や自殺未遂の発生など保護者からの SOS の相談を受けたことであった。教師生活の中での経験を生かして、カウンセリング、畑に引っ張り出すことに成功。口コミで活動が広がってきた。

○土いじりの爽快感、支えてくれるサポーターの温かいまなざしや助言で、働く喜びを少しずつ実感してきた。

○苦しくなっていた親子関係や地域との関係も改善され、希望の光が見えてきて、保護者やサポーターも明るくなってきた。

○問題解決型の有効な地域コミュニティ創出のひとつのモデルとして発展させてゆきたい。朝日新聞の地域版にとりあげていただき、行政、学校、自治会など地域からの関心を少しずつ集めることができた。

○秋の大収穫祭として 10 月 27 日に参加者の交流イベントを行った。いろんな人たちに協力、支えられながら、やっと無事に収穫をすることが出来た。昼は芋ほり、その後調理という大変なスケジュールだった。

「みんなで芋ほり」



(皆、協力し合って芋ほりをしました)

障害をもっている子、小学生、中学生、高校生、大学生、大人と色々な世代の人がお互いに協力しながら、一緒に楽しむ中で交流を深めることが出来た。

芋ほりするのが初めてという子がたくさんいて、ミミズがでてきてワイワイさわぎ、大きな芋がとれては自慢げにしたり、変わった形の芋をみて携帯で写真をとったりと賑やかな芋ほりだった。



みんな集まれ～ 全員集合

「芋をいろいろ調理しました」



天ぷら、ふかしイモ、大学芋、スイートポテト、うすあげと煮込んだものといろんな調理に挑戦しました。レシピを片手に各班ごとに調理しました。

「みんなで試食会だ～」



自分で収穫し、自分達で調理した芋の味は格別でみんな「おいしい、おいしい」と食べていた。みんなで協力しあい、助け合い行動するなかで、お互いのことを理解しあい、より一層交流を深めることができたと思う。

また、芋の栽培を通じて子どもたちは、地域の人々とふれあい、たくさんのことを学んだ。畑作業を通じて、人との関わりの大切さや感謝の気持ちが生まれ、共に生きる喜びや地域コミュニティの中での楽しみを感じることが出来た。

このことが、ひとりひとりの力となり・勇気となって、成長するときのかてとなることと思う。これからも、このような取り組みを継続していきたいと思う。

### ③決算報告

(円)

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000
支出	畑の賃貸料	30,000
	肥料代	5,497
	苗代	8,035
	工作農具代 (小型収納庫・カラー移植ゴテ 40 本・鎌 ・鍬・三角ホーなど)	23,795
	マルチ代	2,230
	イベント「収穫祭」実施代 (食材、調味料、部屋代、交通費など)	12,302
	ガソリン代	19,203
	支出合計	101,062